

構造デザインを巡る旅へ

日本の構造デザインガイドブック

一般社団法人日本建築学会：編

昨今の建築学科の学生がそうであるかは定かでないが、ある時期の建築学科の学生の多くは建築MAPシリーズ、建築案内シリーズ（ともにTOTO出版）にはお世話になっているであろう。筆者も多聞にもれず、学部1、2年次の頃には建築MAP東京を片手に東京近郊の建築を、3、4年次には春夏の長期休暇に建築マップ地方版や建築案内シリーズを片手に地方や海外に建築旅行をした類である。実際に足を運んだ建築体験はその世界の入口に立っていた当時の自分にとって間違いなく貴重な建築体験のひとつとなった。

今回紹介する本書は日本国内の優れた構造設計作品137件を地図、写真、図版とテキストによりコンパクトに紹介した一冊である。コンパクトと言ったのはこの本が建築旅行をする者が携えるのにちょうどよい縦長のサイズ感とボリュームを意識して企画された文字通り「ガイドブック」となっていることを感じるからである。一方で内容は各物件1～2ページの限られた分量で紹介されているものの、豪華な執筆陣＝一線で活躍する構造家（構造設計者、研究者）の濃密な解説により、その要所が十分に理解できるとともに、実物を見る期待感を高めるものとなっている。また、実際に構造デザインに触れたあとに詳細を知りたくなった際は、本書の末尾の参考文献をたどり、個々の技術について巻末の用語索引を頼りに関連作品を参照するなどすれば、より深い構造デザインの世界に触れることができるであろう。

また、初学者の皆さんが本書を通じて構造の世界



建築技術、B5版、230頁
定価 本体3,300円＋税
東京都千代田区神田三崎町3-10-4
千代田ビル4階
TEL 03-3222-5951

に誘（いざな）われることは想像に難くないが、作品群の紹介の間には構造デザインを成立させる種々の要素技術の紹介と、構造デザインを醸成した時代背景などに触れる多数のコラムも収録されており、初学者だけでなく、すでに建築や構造に携わっている実務者や既知の作品について理解を深めたい人の興味にも十分に応えるものとなっている。

本書は2019年に出版された「世界の構造デザインガイドブック」の続編に当たるものであるが、本書の内容

に触れれば「日本の構造デザイン」が世界に誇る発展を遂げた作品群を有しており、単に国内事例の紹介にあらず、「世界」の潮流の続編として日本の構造デザインを紹介しているものと位置付けてよいものと感じる。

本書の冒頭でもことわられているとおり、取り上げられた137作品は議論を重ねて絞り込まれた珠玉の作品群とのことであり、また、空間構造に的を絞っているため、本書に掲載しきれない優れた構造デザインは日本の各地に散在していることは想像に難くない。本書を入口としてさらに数多（あまた）の構造デザイン作品を体験していくのもよいだろう。

前述の書籍によってリアルな建築の世界に誘われ、その後しばらくの経験や出会いを経て構造デザインの世界を志すことになった筆者にとって、学生の時分に本書に出会い、珠玉の構造デザインを巡る旅を体験できる機会を得た学生の皆さんをうらやましく思う。

（きのした ようすけ）